

オール専修の総力結集

2006年 年頭所感



「学生を基本に据えて」大学改革の課題に挑戦

理事長 出牛 正芳

平成18年の年頭にあたり、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

まずは、昨年から5年計画でスタートした創立130年記念事業資金募金に多くのご父母、校友、教職員の方々、また関係各位にご賛同とご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

日本経済は、ようやく景気回復の踊り場から抜け出し、回復への道を歩み出している感があります。まだまだ好景気を肌身で感じるまでとはいきません

が、日経平均株価が16,000円台を回復したり、産業界では各労働組合が賃上げ要求を再開するなど、景気のいいニュースを聞くようになりました。

経済は回復傾向に転じましたが、大学はなかなかそのようにはいかないようです。大学にとって殊更影響が大きいのは少子化現象による18歳人口の減少が急激に進行していることと言えます。その影響はここ数年、特に短期大学の志願者数の減少に如実に表れておりますが、今年の大学入試センター試験の志願者が前年より18,568人減り、3年連続して減少したことも見られるように、4年制大学においても存亡を賭けた厳しい競争が既に始まっており、大学を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。

このような時代背景の中で、本法人では21世紀ビジョンである「社会知性の開発」の実現に向けて、専修大学・石巻専修大学・専修大学北海道短期大学における活動を自ら点検・評価し、改善を図ることは勿論のこと、大学改革の課題に対して全学的な組織を設け検討を推進しております。これからも、大学運営の理念である「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭において、あらゆる場面において「教育研究環境の整備」と「財政基盤の強化」に取り組んでいく必要があると考えております。

また本法人は、2009年の創立130年に向けた記念事業を中心として、オール専修の総力を結集し、あらゆる場面で改革を実行していく所存です。

専修大学においては、130年記念事業の目玉である、生田10号館(仮称)の建設工事が着工されており、今年中にはその姿を現します。また将来構想として、新キャンパスやサテライトキャンパスの取得に向けた検討を重ねておりますし、会計専門職大学院や新学部の設置構想を進めるなどしております。

石巻専修大学においても学部教育の充実や、教育・研究環境充実のためのキャンパス整備を計画しておりますし、北海道短期大学においては、今年4月から新学科体制で新たなスタートを切りますが、新体制における教育環境の充実を図るため、種々の事業を計画しております。

法人としましては、このような3大学の計画を全面的にバックアップするために、創立130年記念事業資金募金の募集について、1人でも多くの方々にご賛同いただけるよう、積極的にPR活動を行なっていきたいと考えております。

最後になりますが、在学生及びご父母並びに校友の皆様におかれましては、本法人と専修3大学が目指すところをご理解いただき、大学を支えていただく大きな力として、一層のご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。創立127年の幕開けに際し、年頭のご挨拶を申し上げます。

学長に就任しましてから2年目の新年を迎えます。この間、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」の具体的推進と、「学生を基本に据えた大学づくり」を諸策の羅針盤として積極的な大学運営を行ってまいりました。「社会知性の開発」は、本学の建学の精神を今日的に捉え直したものであり、私学教育によって社会の骨格を支える有為な人材を育成しようとした創立者たちの熱き思いを、21世紀に花開かせるものです。本年4月には、法学部に政治学科が新設され、商学部では商業学科が名称変更されてマーケティング学科としてスタートします。また、現在、会計専門職大学院の設置に向けた検討がなされています。戦略会議では新学部学科の設置の検討も精力的になされており、間もなくその概要が示され、具体化に向けた検討に進むことになります。社会の動向を見据えた大学改革が必要なことは申すまでもありませんが、本学の採るべき方向性は、わが国において最も充実した文科系総合大学として発展し、その強みを一層発揮することにあると考えています。「社会知性の開発」という視点から斬新な大学改革を行い、人間性豊かな質の高い学生を育成しつつ、いかに専修大学ならではの「知の発信」を行うかが、本学発展の鍵だと思います。大学が大きく変わろうとしているこの時期、本学の発展を期すための諸々の施策は、いずれも創立130年までにその成果を出す必要があります。それには、状況を踏まえた的確な判断と実行の迅速さが要求されます。学長としては、キャンパスに溢れる学生・教職員の活気と情熱を背景に、本学の大きい飛躍に向けて果敢に舵を取っていきたいと思います。

2007年から大学全入時代に突入します。いかに志願者を確保し、いかに学生に自信と誇りを持たせることのできる教育を行い、学生の質を保证するのが重要な問題になっています。「社会知性の開発」を具現化するためには、その能力を持った質の高い学生を社会に送り出さねばなりません。そのためには、大学の総合力が肝要なことは勿論ですが、入試においても10倍程度の実質競争率を維持することが必要です。その意味において、志願者が5万人に達することを目標に諸々の方策を早々に講じなければなりません。この課題は、単なる数字の問題ではありません。本学のイメージをアップし、ブランドをさらに上げる問題でもあります。昨年創立130年記念事業が立ち上がりました。すでに生田校舎で新たに10号館(仮称)の建設が始まっています。これから様々な記念事業が各方面で展開されますので、学生も教職員も、校友も育友も、共に参画し、共に喜びを分かち合うことのできる年にしたいと思います。知の発信に向けたオール専修の結集を期待しております。

経済学部長に室井義雄教授

酒井進教授の学部長辞任(病気療養)に伴い、室井義雄教授(昨年9月16日から学部長代行)＝写真＝が1月1日付で経済学部長に就任した。任期は8月31日までの8カ月(前任者の残任期間)。

室井教授は新潟大学人文学部卒業。東京大学大学院経済学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学。博士(経済学)。

※新学部長のインタビュー記事は2月号に掲載します。



司法、公認会計士第2次、国家公務員採用I種試験

合格者19人を祝福

2005年度司法試験、公認会計士第2次試験、国家公務員採用I種試験の合格者合同祝賀会が12月11日、神田キャンパスで開かれた。日高学長、出牛理事長らが、難関を突破した合格者たちを祝福した。

今年度の本学関係の合格者は、司法試験8人、公認会計士第2次試験10人、国家公務員採用I種試験1人(村松裕之さん・平17法)で、合わせて19人＝他の合格者名は前号既報。

祝賀会には、在学中お世話になったゼミ指導の教員や学生ら約70人が出席、これからの活躍を期待する祝辞が続いた。



日高学長、出牛理事長(ともに前列中央)を囲んで合格者の皆さん